

「熱中症警戒アラート」について

令和4年度は4月27日(水)から10月26日(水)まで実施

×

熱中症警戒アラート

環境省・気象庁が新たに提供する、暑さへの「気づき」を呼びかけるための情報。熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に発表し、国民の熱中症予防行動を効果的に促す。

1. 背景

- 熱中症による死亡者数・救急搬送人員は高い水準で推移しており、気候変動等の影響を考慮すると熱中症対策は極めて重要

2. 発表方法

- 高温注意情報を、熱中症の発生との相関が高い暑さ指数 (WBGT) を用いた新たな情報に置き換える

暑さ指数 (WBGT) とは、人間の熱バファンスに影響の大きい **気温 湿度 輻射熱** の3つを取り入れた暑さの厳しさを示す指標です。

※各地域の暑さ指数は環境省の熱中症予防情報サイト参照

3. 発表の基準

- 府県予報区内のどこかの地点で暑さ指数 (WBGT) が33以上になると予測した場合に発表

暑さ指数 (WBGT)	注釈(予報)の目安(注1)	日常生活での注意(注2)	熱中症予防情報センター
31℃以上	高齢者には夏休み中でも外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	暑熱環境に長時間滞在しない。長時間滞在する場合は、涼しい場所へ移動し、水分をこまめに摂取する。	熱中症の発生が懸念される。外出を控える。外出時は帽子をかぶり、涼しい服装を着用する。
28~31℃	すべての生活活動で注意する。	外出時は早下りをする。長時間滞在する場合は、涼しい場所へ移動し、水分をこまめに摂取する。	熱中症の発生が懸念される。外出を控える。外出時は帽子をかぶり、涼しい服装を着用する。
25~28℃	中継以上の生活活動で注意する。	運動や重い作業は避け、長時間滞在する場合は、涼しい場所へ移動し、水分をこまめに摂取する。	熱中症の発生が懸念される。外出を控える。外出時は帽子をかぶり、涼しい服装を着用する。
21~25℃	暑い生活活動で注意する。	一般的に危険性が少ないが、長時間滞在する場合は、涼しい場所へ移動し、水分をこまめに摂取する。	熱中症の発生が懸念される。外出を控える。外出時は帽子をかぶり、涼しい服装を着用する。

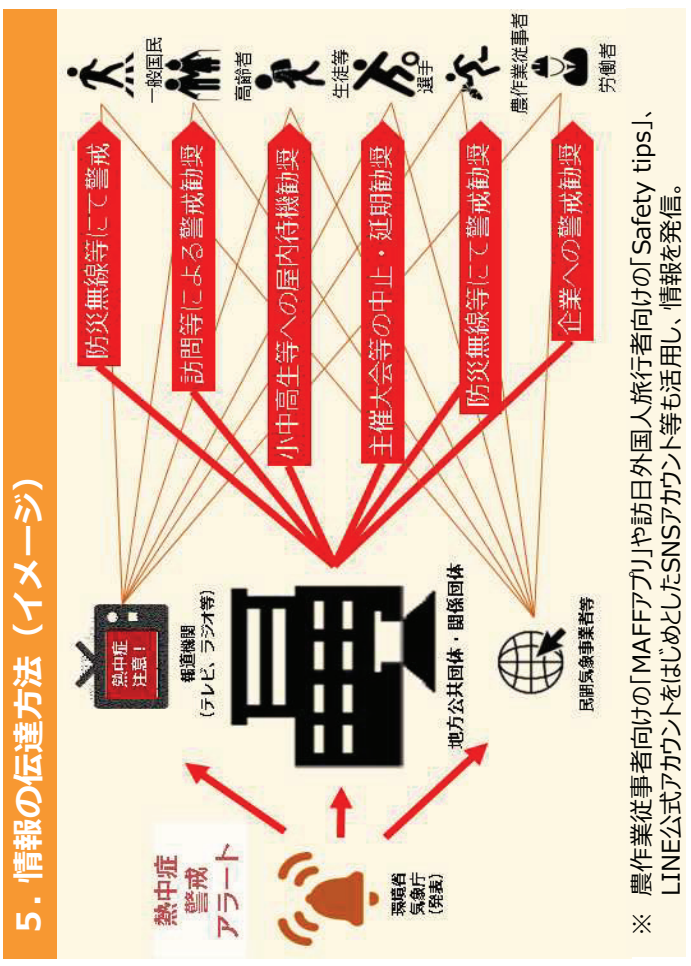
4. 発表の地域単位・タイミング

＜地域単位＞

- 気象庁の府県予報区単位で発表
- 該当府県予報区内の観測地点毎の予測される暑さ指数 (WBGT) も情報提供

＜タイミング＞

- 前日の17時頃及び当日の朝5時頃に最新の予測値を元に発表
- 報道機関の夜及び朝のニュースの際に報道いただくことを想定
- 「気づき」を促すものであるため、一度発表したアラートはその後の予報で基準を下回っても取り下げない



6. 発表時の熱中症予防行動例

- 熱中症の危険性が極めて高くなると予測される日の前日または当日に発表されるため、日頃から実施している熱中症予防対策を普段以上に徹底することが重要。

(例)

- 不要不急の外出は避け、昼夜を問わずエアコン等を使用する。
- 高齢者、子ども、障害者等に対して周囲の方々から声かけをする。
- 身の回りの暑さ指数 (WBGT) を確認し、行動の目安にする。
- エアコン等が設置されていない屋内外での運動は、原則中止/延期をする。
- などが渴く前にこまめに水分補給するなど普段以上の熱中症予防を実践する。

7. 令和3年度の実績

全国における 発表地域: 53地域/58地域
 発表日数: 75日/183日
 延べ発表回数: 613回
 ※4/28~10/27時点

注1) 日本気象学会指針より引用
 注2) 日本スポーツ協会指針より引用